

令和元年9月6日

啓成小学校校舎等改築等工事基本設計業務プロポーザル総評

プロポーザル方式による設計者選定方法は、業務実績と提出された提案内容とを合わせて評価し、設計業務を委託するに適した、適切な技術力及び創造力を有する設計者を選定するものです。

啓成小学校は明治期から続く伝統ある学校です。敷地は鳥取県立米子工業高等学校に隣接し、同米子東高等学校にも近く、米子市を代表する文教地区の1つに位置付けられます。本プロポーザルは、老朽化が進む啓成小学校の校舎整備だけでなく、敷地内に東保育園も取り込み、保小連携型の整備を試みるという、米子市の保育・教育環境整備において今後の1つのモデルともなる意欲的な取り組みです。

審査は、令和元年7月30日公告、8月9日一次審査（応募条件のみの審査）、8月23日提案書の提出後、8月27日ヒアリング（非公開）による二次審査の日程で行いました。

本プロポーザルへの提案は、現在の啓成小学校の敷地において、既存体育館を残し、既存校舎で学ぶ児童の安全性や周辺環境に配慮しながら校舎を現地敷地内で全面的に建て直し、小学校とは別棟で保育園も建設しつつ、両者を有機的に結びつけ、加えて200mトラックを持つ校庭も確保するという高度な設計計画や建て替えプログラムが求められるものでした。

今回のプロポーザルには米子市内の設計事務所による5つの共同企業体からご応募いただきました。短い提案期間にも関わらず、多くの共同企業体から意欲的なご提案をご応募いただき、評価委員会・事務局一同より感謝申し上げます。

一次審査は8月9日に行われました。これは資格要件と実績の評価による書類審査であり、参加表明された5共同企業体の全者が通過しました。ヒアリングは8月27日午後に米子市庁舎内で非公開として行い、各共同企業体が20分の提案発表、その後20分程度の質疑応答を行いました。評価は実績20%、提案80%で行い、実績は事務局側で評価し、提案は評価委員が評価しました。提案への評価項目の内、「親しみを持てる施設」「改修整備の行いやすさ」「小保の共用スペース」「児童園児の安全性」に関わる項目は重点項目とした。

ヒアリング後の評価点集計の結果、実績と提案を合わせた総合得点として、1位と2位

には相応の差がありました。評価委員全員の合意をもって、最優秀者は「あおい総合設計・その建築設計事務所特定設計業務共同企業体」としました。

最優秀者の提案は、校庭を北側中心に配置し、それを取り囲むように西側から順に平屋の保育園・既存体育館・平屋の学童保育・3階小学校校舎を沿道に並べ、街並みのような景観を作り出すと共に、保育園と学校校舎内にそれぞれ設けた図書・共用スペースを通路でつなぐ提案でした。さらに、ワークショップの実施提案、校舎建て替えの配置パターン3案の検討結果、省エネや環境負荷低減への明確な目標、明確な動線検討結果、内部の雰囲気を伝えるスケッチなど、大変具体的かつ意欲的な提案でした。一方、限られた予算の中で、今後は保育園や学校の関係者、保護者や地域の方々、市役所の担当部局との丁寧な検討をされ、実現可能かつ長く使い続けられる基本設計とされることを期待します。

最後に、保育園・小学校は保育・教育の場であると共に、地域コミュニティの拠点であり、子どもたちが1日の中で多くの時間を過ごす生活空間でもあります。今後の設計・施工、運営を通じて、青少年育成に関わる多くの地域の方々のご協力も得ながら、子どもたちが時に活発に、時に集中でき、またほっとできる、そして安心で安全な空間を作り出していただきたいと思います。

啓成小学校校舎等改築等工事基本設計業務プロポーザル評価委員会
委員長 細田 智久（島根大学総合理工学部建築デザイン学科 教授）